大隅工事事務所 ロボQによる試験施工

遠隔操作 危険現場活躍に期待

国土交通省大隅工事事務所は22日、鹿児島市の野尻川で簡易遠隔操縦装置（ロボQ）による無人化試験施工を実施した。

同事務所によると、桜島の堆積した土砂撤去は建設機械の転倒による人身事故などの2次災害の恐れがある危険な作業であるため、平成9年から九州地方整備局九州技術事務所と㈱フジタとの共同開発で災害復旧対策用として開発。通常の土木工事で使用するのは九州で初となる。

特徴としては、バックホウのメーカーや機種を問わずほとんどのバックホウに短時間で装着が可能で、モニタリング装置により150㍍以上も離れた場所から無線遠隔操縦ができる。価格は約1000万円程度。現在、九州管内では九州技術事務所に4台保有されており、年度内には県内にも2台導入される予定。

無人化試験施工の現場では、オペレーターがリモコンを操作すると乗車して操縦するのと変わらないようにアームが上下左右に動き、地面を掘削する際もスムーズに土砂をすくい上げていた。

直前に指導を受けて初めて操縦した㈱内田組の平野照秀さんは「1～2時間の練習で操縦に慣れることができた。危険な作業現場では大変ありがたい」と語った。

遠隔操作でバックホウを操作するオペレーター
＝鹿児島市の現場で

標識改善懇談会

利用者の立場で協議

全国道路標識週間にちなみ、22日、鹿児島市の県庁で道路管理者側と利用者側代表が参加して、14年度標識改善懇談会が開かれた。国道・県道などの案内標識や全国道路標識週間の広報活動など報告し、標識の問題点及び改善方法などを話し合った。

冒頭、県側から「道路を利用する利用者のニーズの多様化によって交通事情も大幅に変わっており、分かりやすい標識が求められている。分かりやすい案内標識検討会やアンケート等で多くの意見があり、今回の審議でも利用者の立場に立った標識について積極的に審議してほしい」と挨拶した。

続いて、石原徹県道路維持課技術補佐を座長に鹿児島国道事務所、県、県交通安全施設工事業協会、鹿児島読売テレビから「わかりやすい案内標識検討会報告」、「14年度全国道路標識週間」、「標識全般」、「鹿児島の道路ここを直して」などについて説明があった。このうち、わかりやすい案内標識検討会の報告でドライバーや歩行者の立場から目的地までの案内標識や経路標識、施設案内など、分かりやすく統一した標識へ改善しているほか、標準的なシンボルを活用し色分けしていることなどを解説。特に、本県のシンボルである温泉は赤、交通施設は緑、その他は青などと分かりやすく説明した。また、県では全国道路標識週間に合わせて実施した広報活動で、標識の整備状況や標識BOXの利用状況及び拡充のほか、ポスター掲示、垂幕などで周知を図ったことなどを報告した。

また、懇談会では高齢化社会に対応し文字サイズを大きくした実施型や季節により街路樹で標識信号が見えづらい、観光案内標識を交差点を曲がったところへも要望したいなど、積極的な意見が出された。

分かりやすい標識について話し合った懇談会
＝鹿児島市の県庁で

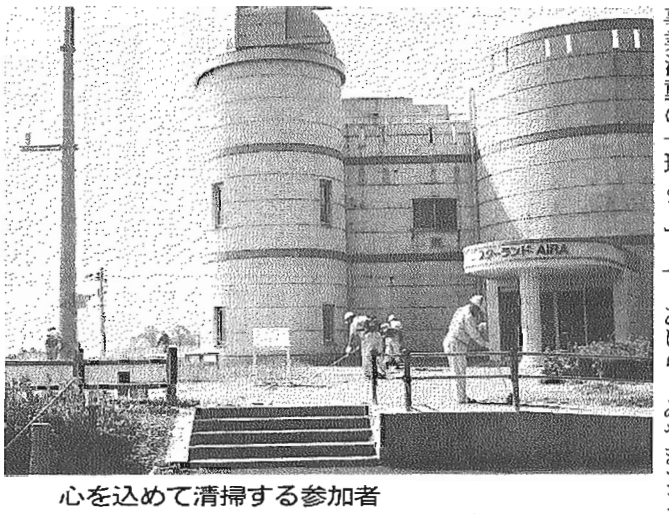
県建築協会姶良伊佐支部ボランティア

管内5地区で清掃等

県建築協会姶良伊佐支部（堀ノ内重夫支部長）はこのほど、建築の日の事業活動の一環として、会員約70人がスターランドあいら、みやまコンセール、横川駅前公園、高齢者宅など、支部管内の各地区で、ボランティア活動を実施した。

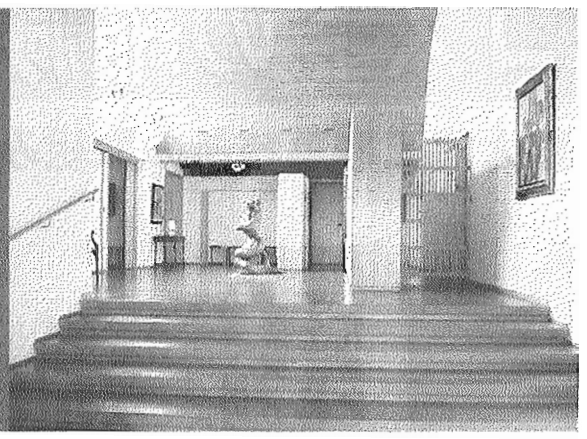
このうち隼人・溝辺地区では、隼人町営東郷団地で清掃作業を行った。午前8時、同団地に集合した参加者に、末廣秋男副支部長が「支部活動への日頃の協力に感謝する。本日は事故のないよう、また住民に迷惑をかけないよう、注意して作業していただきたい」と激励し、刈り払い機やごみ袋などを手にした参加者は、早速それぞれ担当場所へと移動した。

参加者は、団地内の公園や、沿道で高く生い茂った雑草の除去、樹木の伐採や剪定など、手際良く進めていったが、見違えるようにすっきりと整えられていく公園や並木に、作業の様子を見守っていた団地住民は「きれいになった、ありがたいことです」などと感謝の言葉を口にしていた。



心を込めて清掃する参加者
＝姶良町のスターランドあいらで

連載5回目



ハイサイドの光で明るいホール「メゾン・カレ」
（写真＝ヤリ・イェッツォネン）

アルヴァー・アールト

優しき眼差しの建築家

㈱創建築計画研究所代表取締役 溝口 駿 氏

私が初めてアルヴァー・アールトの作品に直にふれる事が出来たのは、10年位前の北欧旅行でヘルシンキを訪

やわらかなスカイライトの光

カンサンエラケライトス（国民年金協会）、フィンランディア・タ

のはカンサンエラケライトスである。外観は日本でも見かけられる

ロ、オタニエミ工科大学などを見て廻った。残念ながらその時アールトの住宅は見ていな

単純な普通の建物に思われるが、一歩ブロンズの把手（金属で手触りの良い）を押して中

がらりと違った空間があり、とても暖かな気持ちに包まれる事に驚いた。大理石の床模様、リブのついた柱、カーブのある壁、自作の照明、テーブル、椅子などでアールト独自のすばらしい空間が構成されている。さらに中の方に入って行くと、クリスタル・スカイライトの光がやわらかく降り注ぎ、密度の高いデザインで人間的で豊かな

学生時代、住宅の作品集で「メゾン・カレ」の曲線のついた天井、ハイサイドの光などに感銘を受け、何遍となく眺めたものである。また、自然を取り込んだ空間は何か日本的でもある。是非いつの日か、実際に「メゾン・カレ」を訪れたいものである。

「アルヴァー・アールトの住宅」鹿児島展は、10月28日－11月10日までの14日間、鹿児島市立美術館で開催される。参加は無料。

地方公共団体向けセミナー

セキュリティ対策学ぶ

鹿児島頭脳センター

㈱鹿児島頭脳センター（須賀龍郎社長）は22日、鹿児島市のマリンパレスかごしまで、「電子自治体とセキュリティポリシー」をテーマとする地方公共団体向けセミナーを開き、37市町村から約60人が参加し、情報化への取り組みやセキュリティ対策などについて学んだ。

セミナーの冒頭、松木田宏三同社専務取締役は「住民基本台帳ネットワークがスタートし、電子自治体の構築による情報セキュリティの対策・強化は非常に重要で、問題意識を持って取り組まなければならない。今日の勉強の成果を今後に役立てください」と挨拶。

続いて、県企画部情報政策課の竹之内修二係長らによる講義が行われ、参加者は熱心に聴講していた。

セキュリティ対策などについて学ぶ参加者
＝鹿児島市のマリンパ